

平成29年度 まちづくり部会会議録（別紙） 現状と課題について

NO	ページ	編-章-節	項目	担当G	まちづくり部会各委員からの質問・意見
1	56	4-1-1	1. 農業生産基盤の整備	産業G	委員 基盤整備について、昨年8月の台風による被害がとても大きい。明渠、暗渠の整備はさらにしていけないと農地がもたない。暗渠は負担が大きく、個人では対応しきれない部分もあるので一度に全部とは言わないが少しずつでもいいので対応していただきたい。 尾野課長 排水升の方は28年、29年で事業を実施している。明渠、暗渠については「新元気な畑づくり事業」との関連も含めて検討したい。 委員 暗渠もいれると費用がかかりすぎるのでは。 尾野課長 現時点では暗渠はまだ想定していない。 阿部課長 「新元気な畑づくり事業」は農家さんからの意見を聞き、検討を進めていて暗渠もという声はあったが、金銭的に難しい部分がある。 委員 去年のような台風が起こり雨が激しいと、土と一緒に流れてしまい、土が覆い被さってしまうので明渠、暗渠をしっかりとる必要がある。
1	56	4-1-1	3. 担い手の育成・確保	産業G	委員 カップリングパーティーの実績は。 委員 カップリングパーティーにこだわらなくても良いのでは。パーティー以外で若い人向けのきっかけづくりの場を設けてはどうか。同じ地域ではなく、他の地域の人との交流も良いのでは。婚活に限定せず。 五十嵐部会長 婚活に力を入れているような感じがする。 委員 気軽に集まることができる場があれば良いのでは。 尾野課長 現状としてはカップルが成立していない。担い手支援センターを中心にコミュニケーションの取り方など側面的な支援も必要と考えている。皆さんの意見を踏まえ、広く検討したい。 五十嵐部会長 地域で青年層の交流を1度行ったことがあるが、現在は年齢の差もでてきているので、難しいところがある。 尾野課長 現在は農業後継者に限定して行っている。その部分はこれからも継続の必要があるが、農業だけではなく、広く結婚希望者に向けたものも開催したい。 氏家補佐 十勝全体でも、職種に関係なく広域での取り組みも行っている。 委員 なかなか1歩が踏み出せない人もいるので、踏み出せるような取り組みを行ってはどうか。 氏家補佐 話のきっかけづくりや服装に悩む方もいるので、そこからの支援を広域で実施予定。
3	57	4-1-1	4. 農業経営の体質強化	産業G	委員 農薬・化学肥料の適正な使用・管理によるクリーンな農産物とあるが、有機農業のことか。 尾野課長 有機農業だけではない。輪作体系や肥料の減無農薬など、総合的な環境保全農業のこと。 委員 合理的に進めていくということか。 尾野課長 全く使わないわけではない。 委員 全体でどのくらい有機農業で作っているのか。 尾野課長 どのくらいかはわからない。これだけの量を生産するには全く使わないとはならないので、必要な部分は使いながら量を生産している。

平成29年度 まちづくり部会会議録（別紙） 現状と課題について

NO	ページ	編-章-節	項目	担当G	まちづくり部会各委員からの質問・意見
4	60	4-1-2	1. 農業者による狩猟免許取得者の拡大及び猟友会会員の拡大	住民G	委員 山崎副村長 猟友会の方の命中率アップには訓練が必要なのでは。年に何回か行っているのか。十勝には射場が2か所ある。猟友会の方は鳥獣駆除だけでなく、大会などにも出ていて、優勝している人もいる。また、ロングレンジの射場は十勝にはないが、年に1～2回は釧路へ行って訓練をしている。 委員 山崎副村長 クマはどのくらい駆除されているのか。近年は年に1頭ずつで、クマがエゾシカの生息を押さえている。クマは保護対象になるため、危険が伴う報告があってから駆除をしに行くことになっている。檻罠等もしかけている。 委員 山崎副村長 檻罠はあまり意味がないように思われる。何年もあるクマには効果がない。また、近年コグマが民家に出てくるようになったが、シカとは違いクマがでてくる所やクマがいるからといって駆除することはできず、道路に出た場合など被害が予測されるときに駆除をしに行く。また、鉄砲を撃てる場所にも制限があるため安易に撃てない。 委員 山崎副村長 アライグマがでてきているが、どのような捕獲の方法があるのか。被害が出てから対処するのか。アライグマは特定外来生物で駆除の許可がでている。猟友会の方も免許を持っている。方法としては箱罠を使っている。目撃があり、痕跡があれば箱罠を設置して見回りなどを行う。 委員 山崎副村長 なかなか被害がわからない。冬場、倉庫や納屋で食料を食べ、住みついたりしている。過去に箱罠で1頭捕まえたことがある。振興局で行っているアライグマ調査での夜間カメラにも実際にアライグマが映っていた。十勝管内にも生息が広がってきている。 委員 山崎副村長 電気柵は他町村でも張っていると思うが、どこに張っているか把握はしているのか。柵の間を縫って入ってきたり、今まで入ってきていなかったところにも来るので、電気柵だけでは対策ができない。他町村の情報があれば対策もしやすくなる。 委員 山崎副村長 把握していない。振興局ではしているかもしれないので確認したい。山と川の間などから入ってくるが、すべて張ることは現実的にできない。
5	63	4-2-1	3. 親しむ森林づくり	産業G	五十嵐部会長 農家の方から防風保安林の伐採を希望する声もでているが、どういった対策を考えているのか。 尾野課長 機械の大型化やGPSの活用が進み、実際に防風保安林が邪魔になるケースが出ている。難しい問題だが、防風保安林の持つ機能や効果をPRし、啓発活動を進めていきたい。

平成29年度 まちづくり部会会議録（別紙） 現状と課題について

NO	ページ	編-章-節	項目	担当G	まちづくり部会各委員からの質問・意見
6	64	4-3-1	1. 経営体質の強化	産業G	委員 伴走型は初年度で4件の実績。実際には11件だったが災害により4件となった。地震で白紙にもなっている。100%もらえるわけではない。また、村はほとんどが小規模である。 委員 枝豆工場の前になにか建設しているが、何が建つのか。 尾野課長 直売所と軽い食事スペースが併設されたもの。 委員 昼に食事ができる所があったら良い。 委員 9月にオープン予定。
7	64	4-3-1	3. まちなかにぎわいづくり	産業G	五十嵐部会長 先進地視察とあるが、どのような内容だったのか。 尾野課長 昨年、役場職員と観光協会職員が視察へ行った。移動型チャレンジショップやガーデニング農園を併設した道の駅へ行き、現地には核となる人材がいたため、村にも中心となる人材育成が必要と感じた。それを含めた検討はまだできていない。ソフト面、ハード面の両方から検討したい。
8	68	4-4-1	3. 観光客の受け入れ態勢づくり	産業G	委員 まちなかにぎわいづくりとあるが、実際はにぎわっていないように感じる。道の駅はにぎわっているがまちなかはそうではない。広くなっていいが、利用者側の意見は吸い上げているのか。役場と観光協会だけの意見なのか。利用者の意見が反映されていない様に思う。朝早く行かないと買えない、日中に商品が補充されないなど生の声と運営側の連携がとれていないように感じる。 尾野課長 道の駅の運営はアンケートをとっている。アンケート以外にも店舗に寄せられる要望も含め、観光協会で年度ごとに集約を行っており、改善点や直せる部分については直してきている。利用者の意見も踏まえ、改善できるようこれからも取り組みたい。 五十嵐部会長 年間70万人来ているが、他も力を入れてきているので新しいことを常に行っていくための対策が必要になってくると思う。 委員 リピート率は入込数に大きく影響すると思うが把握しているのか。 尾野課長 リピート率は算出していない。 委員 大型車用の駐車場にクラシックカーが20台程駐車していたが、一般の車が駐車したいといってきた場合の窓口などはあるのか。 尾野課長 基本的に大型車用に一般車が駐車するといったことは行っていない。しかし、土日になると一般用の駐車場がいっぱいになってしまい、大型車用のスペースが広く空いていると思い、一般車が駐車してしまうため1つの課題になっている。第2駐車場の看板も出してはいるが、やはり目の前の駐車場にとめてしまう人が多い。